

# 創立125周年の伝統、そして新たな挑戦 一貫して女子教育に取り組む宮城学院の目指すもの

トップインタビュー企画

## 教育 最前線

学校法人宮城学院 理事長・学院長

### 松本 宣郎氏

(生年)もと(り)お 1944 (昭和19)年生まれ。70年東北大学文学部  
西洋史専修課程卒業。73年同大学院人文科学研究科(臨時)修士  
課程修了。90年東北大学文学部教授。2009年より宮城学院学  
院長に就任。



学校法人宮城学院は、今年創立125周年を迎えます。  
明治から大正・昭和・平成という時代の移り変わりの中で、  
スクールモットー「神を畏れ 隣人を愛する」を根幹に  
キリスト教を基盤とした女子教育に真摯に取り組み、  
豊かな感性と思いやり、自立心を備えた女性たちを  
数多く世に輩出しています。  
また、この度の東日本大震災でも建学の精神を発揮し、  
地域のためにさまざまな取り組みを進めてきました。  
節目の年を迎え、新たに取り組んでいくこと、  
また変わらずに大切にすべきことについて  
学院長の松本宣郎氏にインタビューしました。

〈学校プロフィール〉



1886(明治19)年9月、夏二丁にて「宮城女学校」創立。1947(昭和22)年に  
宮城学院中学校、48(昭和23)年高等学校、49(昭和24)年女子大学、56(昭和  
31)年附属幼稚園、95(平成7)年大学院を設置。80(昭和55)年にキャンパスを現  
在の桜ヶ丘に移転。

○キャンパス/〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9丁目1-1

OTEL/022-279-1311 ©http://www.mgiu.ac.jp/

### 東日本大震災を乗り越えて 育まれた絆を大切にしたい

東日本大震災では仙台市内でも甚大な被害がありました。宮城学院の被害状況をお聞かせください。

松本 学校の建物にはそれほど深刻な被害はありませんでしたが、大残念なことに、大学生が2人、本入生を予定していた方が1人になり、2人の密生の犠牲者も20余名を数えます。学生生徒の中にも、家が全壊、半壊したり、家族が亡くなった。保護者の職場が津波で失われるなどした被災者が400名ほどいます。支援活動として、被害者状況に合わせて学費の免除や見舞金の支給をしました。来年の受験生についても受験料免除、授業料減免など多岐にわたります。同窓会をはじめ、各国から学んだ多くの義塾生は、被災学生のために有意義に使いた、と考えています。

学校ではさまざまなボランティア活動も取り組まれています。学生から自発的に行うという活動が起りました。安全に備忘録を取り繕いでもあれば、組織的で作ってボランティア参加者を募ったところ、さらに集まり、300人くらいの登録になりました。以前

したり、小さい子どもたちの遊び相手になるなどの活動をしています。食品栄養学料では献身的に働いています。医師などの食料づくりのボランティアなどを行いました。「楽譜サポートプロジェクト」や音楽科の学生による礼拝堂でのチャリティコンサートなども行いました。中高の音楽班は街頭で合唱奉仕をしました。これを一時的なものにせずに、継続してやって欲しいと思っています。

学校内の講堂なども貸し出されたこと聞きました。

松本 大学講堂の被害は軽微だったものですが、市内の小中学校も被災しました。また、体育館も提供し、被災地に運ぶ食料や水、衣類などの補給中継基地になりました。学校は、地域のみなさんと支えられていなければならず、おれおれと相互協力の意味もあります。そういう意味ではお手伝いができると思います。今後は桜ヶ丘地区との防協定についても検討していきます。



被災地への緊急支援物資の中間地となった体育館

### 各世代の卒業生が心に刻む 宮城学院伝統の教え

宮城学院は今年創立125周年。あらためて建学の精神をお聞かせください。

松本 日本に初めてキリスト教のプロテスタントが伝わってきたのは江戸時代の末期1858年。その後30年ほど経つ頃から宮城学院が仙台に誕生しました。最初は10人規模の学校で、数学や国語などを教えたのですが、キリスト教精神を伝えつつ、近代西洋文化に基づいた人間の生き方を学ばせる教育に注力しました。

宮城学院には「神を畏れ 隣人を愛する」というスクールモットーがあります。「畏れを敬ぶ」という意味であり、「隣人を愛する」というのは、「イエスがあなたを愛したように、あなたがお互いに愛し合いなさい」という教えであり、それが宮城学院の教の根幹です。

そんな精神を学んだ同窓生が7,300人を超えています。

松本 小学校や中学校の教員として活躍している方が多いです。また礼拝や授業などを通してキリスト教の精神を学んでいる宮城学院生は、感性が豊かで自立心の高い学生が多く、福祉サービス業、芸術文化の分野などで活躍しています。生きた文化の分野など活躍しています。

同窓生からは「学生時代

にキリスト教にふれ、宮城学院の教育を受けて良かった」と折にふれていわれています。

現在各学校の状況をお聞かせくだ

### 社会に開かれた宮城学院 その中で育つ 新しい時代の女性たち

125周年ならではの取り組みはありますか。

松本 宮城学院専らとしては、今まで5年単位で中長期的計画を実行してきました。今年度は10年を見越して中長期計画をつくらうと考えています。基本的コンセプトは、建学の精神を堅持しながら社会に開かれ、地域に貢献する学校づくり。そういう中で国際的に活躍する女性、品格ある女性、根本的にキリスト教精神を理する女性を育てていくというものです。このコンセプトを根幹にして、具体的な環境づくりを、大学、中高それぞれ考えているところですが、

また、大学関係で2つの計画があります。ひとつは新しい学生寮。もうひとつは図書11工場の機能を備えた学術情報館の建設です。どちらも地域に開かれた施設としてこの機能を持たせたいと考えています。

宮城学院は、幼稚園・中高・大学をひとりのキャンパスで、学院として有機的に一体化して建学の精神に則った教育を進めていくことが大前提です。

最後に、宮城学院のビジョンについてお聞かせください。

松本 プロテスタント・キリスト教、福音主義を建学の精神とする女子教育を堅く守って行くことは不变です。日本、東北、仙台で、みなさんから評価される学校になるために、地域との関わりをさらに深くし、品格のある学生、生徒を育てていくことを心がけて、いきたいと思っています。そのために学生、生徒だけでなく、メンターで良かたを満足して卒業できるメニューを、われわれは常に提供しなくてはなりません。その覚悟は常に持っています。



クリスマス礼拝の様子